

白藍塾オリジナル

2023年度 入試小論文分析&解答のヒント

2023年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・法学部

課題文は、一種の情報社会論。ここ数年の課題文に比べれば、文章自体は読みやすいかもしれないが、内容的にはかなり難解で、知識がないとわかりにくい部分が多い。また、設問も、単純な要約や賛否の論述を求めているわけではないので、やや対応が難しいかもしれない。

この文章は2つの部分に分かれていて、まず前半では、「人間は認知能力の限界から複雑な世界を複雑なまま理解することができない。国境や責任や自由意志といった概念が生まれるのも、世界を単純化して認知コストや対策コストを下げるためだ。だが、インターネットやコンピュータの登場で、人間の認知能力が拡大し、複雑な世界を複雑なまま生きられる可能性が出てきている」といったことが述べられる。

そして、後半では、「近代の経済と政治のシステムは、企業や国家による資源の囲い込み(=膜)と中央集権的な組織(=核)によって権力と貨幣を実体化させ、静的で横暴なものへと変質させている。インターネットなどの新しい情報技術を用いて、そうした膜と核という社会現象を打ち破る可能性を模索する必要がある」と述べられている。

設問では、まず「膜」と「核」という概念を用いて課題文を要約することが求められている。前半部分には「膜」「核」という概念が使われていないので、課題文の内容を順を追って説明するだけでは設問の条件にきちんと答えたことにはならない。「膜」と「核」は、前半部分で言われる「複雑な世界を単純化し、認知コストを下げるための手段」と考えられるので、そう解釈することで前半と後半を一貫した論理でまとめることができる。

その上で、「『膜』と『核』がもたらす現代政治上の弊害を新しい情報技術によって克服しようとする場合、どのような解決策があり得るか」を論じることが求められている。

「『膜』と『核』がもたらす現代政治上の弊害」については、課題文の最後から2～4段落目で論じられている。近代国家の成立によって国境と「誰を国民とみなすか」(これが「膜」)が明確にな

り、自国の利益を最大化するために他国を侵略することも行われるようになった。また、本来は国民の意志によって支えられているはずの国家の執行権力（「核」）が、複雑化する権力構造の中で国民の意志から乖離し、権力闘争が自己目的化してしまっている。

そうした弊害を、「新しい情報技術」を使って解決する手段を考える必要があるが、知識があればすぐに思いつくのが、インターネットによって直接民主制を実現することだろう。政府や議会は、課題文の言う認知コスト・対策コストを下げるために必要とされている面がある。だが、インターネットによって国民が直接意見を交わし、また電子投票などで国民投票が低コストで実現できれば、国民が政治的な意思決定に直接参加できるようになるので、政府や議会が媒介することによる弊害をなくすことができる。また、そうした手段を、国境を越えて国際社会全体に広げることができれば、国家間の対立構造をなくすことも可能かもしれない。

また、AIなどを使ったビッグデータ分析によって、民意を直接収集・分析し、その結果に基づいて政治を行うことで、政府や議会による弊害をなくす可能性も考えられる。また、まだまだ空想的ではあるが、メタバースなどのインターネット上の仮想空間で、アバター同士で国境を越えた議論や意見交換を行い、それに基づいて政治的決定を行うことも可能になるかもしれない。

その他にも、近年の情報技術の発展を踏まえて、いくつかアイデアが考えられるだろう。

書き方としては、対策問題の書き方を応用して、最初に自分の考える解決策をズバリと示す。第2部でその解決策の限界を説明するようにすれば、設問の条件もクリアーできるはずだ。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>